

実 績 報 告 書

令和 6 年 12 月 25 日

(あて先) 富士市長

〒			
所在地			
名 称	富士子ども劇場		
代表者 氏 名	望月	晴美	
電話			

富士市補助金等交付規則第10条の規定により、関係書類を添えて報告します。

1 補助金額	100,000円
2 事業等の目的	富士子ども劇場は、子ども主体のおまつりを毎年実施してきました。平成19年以來富士市の市民活動支援補助金を受け、市内全ての子ども達を対象に異年齢の子ども達が自由に遊べる創造的な遊び空間を企画してきました。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、子ども劇場ならではのまつりと考え、会員と一般の親子で楽しむ舞台鑑賞を続けてきました。今年も2日間です。11月24日(日)は、プロのマジシャンによる「ジン・マサフスキーのサイレントコメディーマジック3」。12月1日(日)は、参加者のアンケートに多かった音楽「アコーディオンとおもちゃ楽器のコンサート」です。午前中は0.1.2歳半の乳幼児とその親を対象とし、午後は2歳半、3.4.5歳の幼児とその親を対象としました。富士子ども劇場の会員と共に、広く一般の方たちに参加してもらい、より幅広く多くの親子に観劇の1日を提供します。
3 事業等の着手日	令和65年 4月
4 事業等の完了日	令和 6年12月
5 事業等の実施場所	富士市交流プラザ会議室1, 多目的ホール
6 参加人数	220名
7 添付書類	・富士子ども劇場2024子どもまつり実績報告書 ・収支決算書 ・領収書コピーNo.1～No.15 ・会場の様子(写真) ・アンケート集計結果 ・ポスター、チラシ ・例会を楽しもう(当日パンフレット) ・公演一般売りチケット ・口座振替申請書 ・富士市市民活動支援補助金請求書
8 成果、反省など	別紙

令和 6年 12月 25日

富士市長 小長井 義正 様

所在地

名 前 富士子ども劇場

代表者氏名 望月 晴美

実 績 報 告 書

令和 6年度事業として、富士市補助金等交付規則第3条の規定により補助金の交付を受けた事業を完了したので、下記のとおり報告します。

項	記 事
事業の名称	富士子ども劇場2024子どもまつり
実施時期	令和 6年 11月 24日(日)、12月 1日(日)
成果および反省事項 富士子ども劇場では、毎年子どものためのおまつりを実施しています。 今年度も、遊び空間や手作りゲームは中止し、親子で舞台劇を鑑賞する子どもまつりを開催しました。 11月24日(日)は、例会として決まっていたJIN OFFICE公演「ジンマサフスキーのサイレントコメディーマジック3」に、会員と、一般の方には有料で参加していただきました。また、昨年のアンケートで希望の多かった『音楽を子どもと聞きたい』の声に、イマイアキプロデュース、イマイアキ公演「アコーディオンとおもちゃ楽器のコンサート」。午前中は0才から2才半の乳幼児とその親対象、午後は2才半から5才の幼児とその親対象として、こちらも有料公演としました。 11月24日(日)は、プロのマジシャンによる生の舞台鑑賞に反応が良く、チケット予約のメールが順調でした。また、前日の23日(土)には、令和6年度富士市男女共同参画推進事業 富士発・女と男のフォーラムとして「ジン・マサフスキーの親子マジックワークショップ」を開催。目の前でマジックを見たり、技をレクチャーされたり、宣伝にも努めました。公演当日は、テーブルが頭の上まで浮いていく不思議なマジックの数々を堪能し、子ども達の「えー、なんで?」「どうなってるの?」と驚く声と、何とかマジックの仕掛けが見えないものかと大人のジッとマジシャンの姿を見る目が楽しい舞台でした。 12月1日(日)の午前は、11時開演。上演時間は30分と短いのですが、5カ月から3才の乳幼児、幼児を連れて、パパ、ママ、祖母といった方たちが鑑賞しました。アコーディオンや、鈴、カスタネット、音が鳴るおもちゃをいくつも使ってお馴染みの曲を演奏し、子ども達はそれぞれの感情で体を動かしていました。午後は14時開演。こちらは午前よりも少し大きな子ども達の回なので40分弱の上演時間です。4才から7才までの親子が鑑賞しました。クリスマスソングもあり、美しい音色を満喫できました。午前と午後、どちらも最後におもちゃ楽器で遊ぶ時間があり、子ども達がそれぞれお気に入りの楽器で遊んで、音を鳴らして、中々離れずに終わることができなくて困ってしまうほどでした。演者のイマイアキさんの、やさしい声と紡ぎ出す音色に大人も子どもも癒される時間でした。 富士子ども劇場の50周年記念イヤーと冠を付けた今年度の「子どもまつり」でした。チケットも予定通り売ることができて財政的には良かったと思っています。 富士市市民活動支援補助金事業として、毎年「子どもまつり」を開催してきましたが、とりあえず今年度で終了です。富士子ども劇場の弱体化とスタッフ不足で、このような企画を推進することができなくなりました。これからも、親子で生の舞台を鑑賞できる場がありますようにと願ってやみません。	

【実績報告書に添付】

収 支 決 算 書

収入の部

No.	項目	金額(円)	説明
1	富士市補助金	100,000	
2	公演チケット収入	108,900	「ジンマサフスキーのサイレントコメディーマジック3」 2000円×45 当日2100円×9
3	公演チケット収入	117,000	「アコーディオンとおもちゃ楽器のコンサート」AM 親子ペア券2500円×14 大人追加2000円×7 子ども追加500円×3 PM 親子ペア券2500円×22 大人追加2000円×5 子ども追加500円×3
4	協賛金	34,000	会員、OG、一般、企業より
5	子ども劇場拠出金	62,355	劇場の会費より捻出
6			
合計		422,255	

支出の部

No.	項目	金額(円)	説明	領収書No.
1	会場費	115,770	富士市交流プラザ多目的ホール、会議室1	1、2
2	劇団謝金	247,525	劇団へ（上演料、交通費、食費） 昼食	3～7
3	劇団宿泊費	17,400	ビジネスホテル2名1泊、1名1泊	8、9
3	ポスターチラシ紙代	41,560	公共機関、幼稚園、保育園配布	10～15
4				
5				
6				
合計		422,255		